

近隣の自然の変化に目を向ける No. 53

「スカシユリ（透かし百合）祭： Asiatic Hybrid Lilly festival」

2021年6月30日

今年は、例年以上に多様で豊かなスカシユリを見ることができた。「透かし百合」の意味をネットで調べると、“付け根部分がやや細く、隙間が見える”ことから名付けられたと言う。英名は Asiatic Hybrid（アジア原種を元に交配された園芸品種）、学名は、*Lilium* × *elegans*。ユリの中で一番丈夫で作りやすく、日当たりと風通しのよい場所に植えておくと何年間も咲き続けるので、日本では江戸時代初期から交配が行われ、たくさんの品種が作られている、と記されていた。

百合は、姿、形が優雅で見栄えが良いので人気があり、百合だけの植物園が各地にある。近隣の祖師谷公園近くの花壇にも何種類もの百合の花が咲きそろう、けっこう長い間楽しませてくれた。その大部分がスカシユリで、テッポウユリも数本咲いていた。

そこで、今回はスカシユリ特集とし、近隣で見かけたヤマユリ、オニユリを下段に載せた。

なお、ネット情報によると、百合は、花の形態により4亜属に分類される：スカシユリ亜属(上向きで杯状)、テッポウユリ亜属(横向きで筒状)、ヤマユリ亜属(横向きでロウト状)、カノコユリ亜属(下向きで鐘状)。